

1 基本姿勢

「開放性」を意識して4つの基本姿勢で取り組む

- 大きな**連携**の輪をつくる
- 試行錯誤**のプロセスを楽しむ
- 地球規模で考え、**足元**から行動する
- バーチャルを使いこなし、**リアル**を大切にする

HYOGO VISION 2050

大きな連携の輪をつくる

ビジョンを実現するためには、社会を構成する多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む連携が欠かせません。

ビジョンに共感し、共に行動する連携の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。そのため、ビジョンを具体化していくプロセスを透明化し、広く情報を共有する必要があります。つながりから新たな可能性を生むためにも、人もモノも情報も広く共有し、得られた成果もみんなで共有する姿勢が求められます。

試行錯誤のプロセスを楽しむ

社会の課題は複雑化しており、模範となるモデルを探して追随することは難しくなっています。ビジョンの実現に向けては、試行錯誤を繰り返しながら、自力で道を切り拓いていく覚悟が求められます。

大切なのは、実験的な試みを楽しむ姿勢です。めざす姿に近づくために何が必要かを一人ひとりが考え、学習と実践のサイクルをテンポ良く回していく必要があります。また、地域には、そうしているいろいろなことにチャレンジする人を歓迎する姿勢が求められます。

失敗から学び、再チャレンジする人を応援する、失敗に寛容な風土を根付かせていく必要があります。

地球規模で考え、足元から行動する

地域を変えるためには、一人ひとりの県民が足元の地域の課題に目を向け、身の回りから解決に向けた行動を起こし、地道に取り組む必要があります。

一方で、気候変動、感染症など世界共通の課題がクローズアップされています。インターネットで世界が一つにつながり、世界の動きが直接地域に影響する時代です。これまで以上に世界で起こっていることに目を向け、世界と地域双方の視点を持って、自分に何ができるかを考える姿勢が求められます。

バーチャルを使いこなし、リアルを大切にする

ICTを駆使して生活をより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーションを進め、バーチャル空間を最大限に活用して自由度の高い社会をつくっていく必要があります。

しかし、いくらICTを使いこなして便利になったとしても、大切なのは人と人のリアルな交流であり、人の温もりです。リアルとバーチャルのバランスを考える姿勢が求められます。

2 動かす仕組みづくり

実行プログラムの策定

- 地域創生戦略をはじめ各分野計画をビジョンの実行プログラムと位置づけ

先導プロジェクトの推進

- 全県ビジョン実現に向けた重点プロジェクトを推進
- 地域ビジョン実現に向けたプロジェクトを企画・協議する場を各地に設置

対話と学びの場づくり

- 県民が地域の未来を語り合い、考える場づくりを各地で展開

推進状況の見える化

- 推進状況を毎年度公表、状況に応じた見直しに柔軟に対応

HYOGO VISION 2050

(1) 実行プログラムの策定

- 県が定める各分野の基本的な計画はビジョンの実行プログラムとしての位置づけを有します。なかでも最も総合的な計画である地域創生戦略はビジョンの主たる実行プログラムとなるものです。
- これらの計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、ビジョンの実現に向けた施策を県を挙げて推進していきます。

(2) 先導プロジェクトの推進

① 重点プロジェクトの推進

- 全県ビジョンの実現に向けて県として先導的に取り組む重点プロジェクトの仕組みを整えます。
- 関係する主体が参画するプロジェクトチームを設置するなど、民間の自由な発案を活かす公民連携を基本にプロジェクトを推進します。

② 地域プロジェクトの推進

- 地域ビジョンの実現に向けたプロジェクトを生み出す仕掛けとして、地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる協議の場を各地域に設置します。
- この協議の場の運営は、地域ならではのユニークな取組を生む場となるよう地域の自主性に委ねます。

(3) 対話と学びの場づくり

- 今後も未来を考え続けることが大切です。各地域に設置するプラットフォームを中心に県民が地域の未来を語り合い、学び合う場づくりを進めます。
- 次代を担う若者が自分や地域の未来を考え、新しい一歩を踏み出すきっかけになるよう、若者がビジョンを素材に地域について学び、議論し、実践する場づくりを大学などと連携して進めます。
- 県民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な対話と学びの場づくりを支援します。
- 対話と学びを通じて県民主体の新しい取組が立ち上がるよう促し、市町と歩調を合わせて支援します。
- 多様な媒体を用いてビジョンの内容とその実現に向けた取組の情報を分かり易い形で発信します。

(4) 推進状況の見える化

① 毎年度の点検評価

- 推進状況を毎年度点検評価し、その結果を取りまとめて公表します。

② 柔軟な対応

- 社会情勢の変化など状況に応じたビジョンの見直しに柔軟に対応します。